

## <第8分科会> リーダー育成

### 研究課題 これからの学校を担うリーダーの育成

#### 分科会の趣旨

教職員には、高い指導力と子どもの人格形成に関わる豊かな人間性が強く求められ、子どもや保護者からの敬意や信頼は、教職員一人一人がその資質能力を絶えず向上させていくことにより得られるものである。また、課題解決に取り組む学校の組織力の向上は、学校への信頼を一層高めることになる。このような学校づくりには、学校を担うリーダーとして、校長の確かな経営ビジョンを理解し、中心となってその実現に取り組む人材が必要である。

一方、増加する若手教員の育成や多様化・複雑化する諸課題の解決を図るため、学校には中核的役割を果たすミドルリーダーの存在が不可欠である。このミドルリーダーには、教育活動全体を見渡せる広い見識と実践的指導力、教職員間あるいは教職員と管理職間の円滑な調整力などが求められる。

校長は、教職員一人一人の授業力の把握はもとより、学校運営の能力、教職員を掌握する能力等これからの学校を真に担うリーダーとしての力量を見極め、人材を発掘し、意図的・計画的に、その資質能力の一層の伸長に努めなければならない。

本分科会では、校長として、これからの学校を担う確かな展望をもち行動できるミドルリーダーや変化の時代を生きる人間性豊かな管理職人材育成のための具体的方策を明らかにする。

#### 研究の視点

##### (1) 確かな展望をもち行動できるミドルリーダーの育成

ミドルリーダーとは、学校内におけるチームとしての実践に対し、中核となってリードできる教職員である。ミドルリーダーには、教科指導、学級経営や生徒指導等の力量はもとより、これからの学校教育への確かな展望企画力や調整力など組織をまとめ、教育活動を推進していく力が求められる。

校長は、ミドルリーダー育成のため、副校長・教頭等に適切な指導や助言を行わせるとともに、校務分掌を意図的に充て、組織の中核となれる機会を設ける等、リーダーとしての資質能力を高めることが重要である。

このような視点に立ち、確かな展望をもち、自ら判断し行動できるミドルリーダーの組織的・計画的な育成を図る上での、校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

##### (2) 変化の時代を生きる人間性豊かな管理職人材の育成

管理職には、時代の変化に伴う諸制度の改革や社会の多様な価値観等を受け止め理解する真摯な態度と能力が求められる。同時に、管理職として、あらゆる課題に柔軟かつ迅速、適切に対応するための人間関係調整力やコミュニケーション能力等とともに、豊かな人間性が求められている。しかし、大都市圏を中心に若手教員の増加、管理職を目指す教員の減少が見られる中、管理職人材の発掘・育成が急務となっている。

校長は、管理職を担い得る人材の意図的・計画的な育成が求められ、日常業務を通じた職場内での教育(OJT)、他機関における職場外研修、自己啓発等、様々な方策を講ずる必要がある。また、魅力ある管理職像を積極的に示すことも重要である。

このような視点に立ち、これからの学校教育に明確な展望をもち、変化の時代に柔軟に対応する人間性豊かな管理職人材の育成を図る上での、校長の果たすべき役割と指導性を究明する。